



OFFICIAL NEWS LETTER

31 Oct. 2014 Vol.221

J.LEAGUE™ NEWS

© J.LEAGUE PHOTOS

© J.LEAGUE PHOTOS



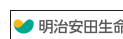
広島の佐藤寿人(左写真)とG大阪の宇佐美貴史。たぐいまれな得点力を持つストライカーが、それぞれのチームを栄冠に導けるか

決勝はサンフレッチェ広島 vs ガンバ大阪

激戦の準決勝を勝ち抜いて晴れの舞台へ。西日本勢同士の決勝は大会史上初めて

2014 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝のカードは、サンフレッチェ広島 vs ガンバ大阪に決まった。ホーム&アウェイによる準決勝が10月9、12日に行われ、広島 vs 柏レイソル、川崎フロンターレ vs G大阪は共に1勝1敗の成績。広島は2試合合計スコアが3-2、G大阪は同じく5-4で決勝へ駒を進めた。決勝は11月8日(土)、埼玉スタジアム2002を舞台に開催される。1992年に大会がスタートして以来、初めて西日本勢同士の決勝となる。また、J2リーグ戦では湘南ベルマーレが10月11日に行われた第36節で、初優勝を決めた。ピッチ上の戦いは白熱の度を増し、いよいよクライマックスが近づく。(2ページに関連記事)

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS



J 2014 J.LEAGUE YAMAZAKI NABISCO CUP SEMI-FINALS

激戦の準決勝は共に2試合合計スコアで決着



© J.LEAGUE PHOTOS

第2戦で貴重な得点を挙げた広島の高萩(中央)を皆川(左)と高萩が祝福



© J.LEAGUE PHOTOS

G大阪は第2戦で阿部(中央)が2得点の活躍。川崎Fの田中(左)、森谷と競り合う

準決勝は両カードとも激戦になった。
サンフレッチェ広島はホームで戦った第1戦で、柏レイソルに2-0で先勝した。得点は41分、50分といずれもFW佐藤寿人がマーク。佐藤の動き出しとMF高萩洋次郎のパスがピンポイントで合った、まさに「ホットライン」と呼ぶにふさわしい関係から生まれた。

第2戦は2連覇を目指す柏が意地を見せた。FWレアンドロが38分、51分に得点し、第1戦との2試合合計スコアを2-2とした。その後も柏の猛攻が続いたが、広島は74分、MF石原直樹が1点を返した。広島は第2戦で1-2と敗れたものの、この得点が両チームの明暗を分けることになり、決勝進出を決めた。

一方、ガンバ大阪も第1戦で2点をリードした。DF米倉恒貴が16分に口火を切り、28分にFW宇佐美貴史、49分にFWパトリックが追加点。川崎フロンターレを後半アディショナルタイム2分のDF田中裕介の1点に抑え、3-1と勝利した。

川崎Fに先制を許した第2戦は、42分、45分

にMF阿部浩之が立て続けに決めて、一度は逆転した。その後、2点を奪われて2-3と敗れたものの、第1戦のリードを生かして逃げ切った。FW大久保嘉人が9分に先制した川崎Fは、前半アディショナルタイム3分にDFジェシ、51分にMF森谷賢太郎の得点が生まれて第2戦をもにすることも及ばなかった。

広島の決勝進出は、ジュビロ磐田に3-5と敗れて準優勝に終わった2010年以来、4年

ぶり2度目。森保一監督は準決勝第2戦後に「11月8日(の決勝は)、必ずわれわれが勝ってタイトルをものにすると選手たちに伝えた」と優勝への決意を語った。G大阪は川崎Fを1-0で下して初優勝した07年以来、7年ぶり3度目の決勝進出。長谷川健太監督は「広島はJリーグの王者。チャレンジャーの気持ちで、しっかり勝てるように準備していきたい」と抱負を述べた。

2014 Jリーグヤマザキナビスコカップ 決勝トーナメント



【準々決勝・準決勝】表右側のチーム：第1戦ホームチーム／左側のチーム：第2戦ホームチーム 【決勝】表左側のチームをホームチーム扱い

J.LEAGUE DIVISION 2

湘南ベルマーレの優勝が決定。第3節から首位を譲らず

J 2 リーグ戦は、開幕14連勝など第3節から首位をキープした湘南ベルマーレが、初優勝を飾った。10月11日に行われた第36節の東京ヴェルディ戦を0-0で引き分け、残り6節で2位の松本山雅FCとの勝点差が19となったため。9月23日の第33節では京都サンガF.C.と2-2で引き分け、J1リーグ昇格条件の一つとなる2位以内が確定。J1クラブライセンスも交付され、Jリーグ理事会の承認を経て昇格が正式に決まる。

チームを率いて3シーズン目となる青 貴裁監督は東京V戦後、「最後まで勝つためにやること、これまでずっと続けてきたことが、6試合を残したところでチャンピオンになれた要因だと思う」と、ぶれないチームづくりの方針を振り返った。また、Jリーグの村井 満チェアマンは「攻守にわたり走り続ける『湘南スタイル』をチーム一丸となって実践した成果。ぶれない強い意志を持って戦い続けてきた全てのクラブ関係者の皆さまに敬意を表します。私自身、チェアマンになって初めて優勝の瞬間に立ち会いましたが、クラブがファン・サポーター、地域の方々と共に喜びを分かち合う姿に大変感動しました」などとコメントを寄せた。



© J.LEAGUE PHOTOS

第37節のV・ファーレン長崎戦後、湘南の永木キャプテン(右)に村井チェアマンからJ2優勝のJリーグ杯(優勝銀皿)が授与された

クラブライセンス交付第一審機関(FIB)決定による 2015シーズンJリーグクラブライセンス交付

2015シーズンJリーグクラブライセンス(Jライセンス)交付が下記のように決定し、その概要説明会が9月29日に行われた。なお、Jライセンスの交付判定については、第三者機関であるクラブライセンス交付第一審機関(FIB)が行っている。FIB構成員はJクラブに対して独立している他、Jリーグおよび日本サッカー協会の理事、監事、専門委員などとの兼務は認められていない。

申請を行った44クラブのうち、43クラブがJ1もしくはJ2のライセンスを交付された。ガイナレ鳥取は停止条件付J2ライセンスの判定。J2ライセンス交付に際しての停止条件があったが、FIBより通知された2014年10月30日の期限までに同条件を充足した

ため、J2ライセンス付与の効力が発生した。

新たにJ1ライセンスを取得したのはカマタマーレ讃岐。AC長野パルセイロは、同じく新たにJ2ライセンスを取得した。J2ライセンス取得は計7クラブ。水戸ホーリーホック、FC町田ゼルビア、FC岐阜、鳥取、ギラヴァンツ北九州はホームスタジアムの入場可能数が1万5000人未満であり、長野、ツエーゲン金沢は2014シーズンの所属が明治安田生命J3リーグのため。

判定のB等級基準であるトイレの数は未充足であっても、観客席数を「満員」から「60%」にした母数で判定した場合に充足していれば制裁を免除されており、また新スタジアム建設が着工もしくは発表されているクラブもトイレの数と屋根のカバー率の未充足による制裁は

大河正明Jリーグ常務理事コメント

昨年度末のJ1・J2クラブの財務状況は、2期連続赤字が5クラブ、債務超過が11クラブ、双方に該当するのが4クラブ。ことしの判定までのクラブの取り組みにより、財務基準の3期連続赤字と債務超過の解消の猶予期限である2014年度末において、いずれも達成可能な状態であるとの立証が認められ、全てのJ1・J2クラブにJライセンスが交付されたことはそれなりに評価できる。

また、ライセンス制度導入時には、財務基準によりクラブ経営が縮小均衡になるのではないかと懸念が一部に示されたが、過去3年間で緩やかな拡大均衡で推移しているといえる。

今後は、クラブがどのような戦略のもとで成長曲線を描くのが重要。Jリーグと各クラブがそれぞれにビジョンを持ち、その戦略に沿って中長期課題に取り組むことが大切だと思っている。財務基準の課題の一つの区切りがつき、ほとんどのクラブがスタートラインに立ったことになるので、身の丈を大きくする努力をしつつ、身の丈に合った経営を実践してほしい。

クラブライセンス制度の中で、今後特に注力していきたいところは、競技基準のアカデミーの質の向上と施設基準のホームスタジアムとトレーニング施設の整備。アカデミーについては、評価システムの導入も視野に入れるなど、制度の充実を図ってきたい。

免除されている。

なお、説明会ではJライセンス交付の発表に加え、ライセンス制度導入から3年間の成果と今後の課題についての説明が行われた。

2015シーズンJリーグクラブライセンス交付について

1. 判定結果

J1クラブライセンス	J2クラブライセンス	停止条件付J2クラブライセンス(※1)	合計
37	6	1	44
札幌、仙台、山形、鹿島、栃木、群馬、浦和、大宮、千葉、柏、F東京、東京V、川崎F、横浜FM、横浜FC、湘南、甲府、松本、新潟、富山、清水、磐田、名古屋、京都、G大阪、C大阪、神戸、岡山、広島、讃岐、徳島、愛媛、福岡、鳥栖、長崎、熊本、大分	水戸、町田、長野、金沢、岐阜、北九州	鳥取	

(※1) J2クラブライセンス交付についての停止条件があったが、期限(10月30日)までに停止条件を充足したため、J2クラブライセンス付与の効力が発生した。

2. ホームスタジアムのトイレの数および屋根のカバー率に関するB等級基準の充足状況

	J1クラブライセンス	J2クラブライセンス	合計
B等級基準充足	8	2	10
B等級基準未充足(制裁免除)	9	1	10
B等級基準未充足(制裁対象)	20	4	24
合計	37	7	44

3. 判定に付帯する経営上の是正通達

	J1クラブライセンス	J2クラブライセンス	合計
是正通達	3	1	4
対象外	34	6	40
合計	37	7	44

《参考》

○Jライセンスの種類

Jライセンスには右記の2種類があり、各ライセンス基準のうち「A等級」に指定されている基準を全て充足すれば、いずれかのJライセンスが交付される。

	内容
J1クラブライセンス	順位などの要件を満たしていれば、2015シーズンはJ1に残留または昇格することができる
J2クラブライセンス	順位などの要件を満たしていれば、2015シーズンはJ2に残留または昇格することができる(J1に昇格することはできず、J1昇格プレーオフの出場資格もない)

○ホームスタジアムのトイレの数および屋根のカバー率に関するB等級基準未充足

各ライセンス基準のうち「B等級」に指定されている基準については、それを充足していなくてもJライセンスは交付される。ただし、クラブライセンス交付規則第7条および第15条に基づき、「B等級」の基準の一つでも充足していないクラブには、Jライセンス交付と同時に制裁が科され得る。

項目	内容
B等級基準未充足(制裁対象)	B等級基準(特にホームスタジアムのトイレの数、屋根のカバー率)を充足していないクラブに対して、制裁が科される

制裁対象となっているホームスタジアムと対象クラブ、制裁内容は以下の通り。

未充足項目	対象スタジアムとクラブ	制裁内容
トイレの数(対象:2クラブ)	・岐阜メモリアルセンター長良川競技場【岐阜】 ・ヤンマースタジアム長居【C大阪】	・対象スタジアム名を公表する ・クラブはトイレの洋式化の計画または構想を2014年12月31日までに提出する
屋根のカバー率(対象:11クラブ)	・栃木県グリーンスタジアム【栃木】 ・正田醤油スタジアム群馬【群馬】 ・NACK5スタジアム大宮【大宮】 ・日立柏サッカー場【柏】 ・町田市立陸上競技場【町田】 ・Shonan BMW スタジアム平塚【湘南】 ・山梨中銀スタジアム【甲府】 ・富山県総合運動公園陸上競技場【富山】 ・ヤマハスタジアム【磐田】 ・鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム【徳島】 ・ニンニニアスタジアム【愛媛】	・対象スタジアム名を公表する ・AFC主催大会のホームゲームが開催できない可能性があることを通知する ・クラブは屋根のカバー率不足への対応策または構想を2014年12月31日までに提出する
トイレの数と屋根のカバー率(対象:11クラブ)	・NDソフトスタジアム山形【山形】 ・ニッパツ三ツ沢球技場【横浜FM・横浜FC】 ・松本平広域公園総合球技場(アルウィン)【松本】 ・石川県西部緑地公園陸上競技場【金沢】 ・IAIスタジアム日本平【清水】 ・名古屋市瑞穂陸上競技場【名古屋】 ・とりぎんバードスタジアム【鳥取】 ・kankoスタジアム【岡山】 ・エディオンスタジアム広島【広島】 ・香川県立丸亀競技場【讃岐】	・対象スタジアム名を公表する ・AFC主催大会のホームゲームが開催できない可能性があることを通知する ・クラブは抜本的な施設改善計画(今後の活動計画)を2014年12月31日までに提出する ・2015年の審査時に計画の進捗が見られない場合には「戒告」とする

○判定に付帯する経営上の是正通達

Jライセンス交付判定に付帯して、クラブ経営上、是正すべき点があるとFIBが判断したクラブに対し、是正措置を通達する。

項目	内容
是正通達	(1) 2014年度損益見通しをJリーグに定期的に報告すること (2) 2015年度予算編成時にJリーグに事前に説明すること



スペシャル対談

村井 満

Jリーグ チェアマン

原 博実

日本サッカー協会 専務理事

Jリーグの創設が、日本代表のFIFAワールドカップ5大会連続出場をはじめとする国際舞台での飛躍、成長につながったのは疑いない。もちろん、世界トップクラスのレベルはさらに高く、日本サッカーの挑戦は続く。そのための選手を供給するJリーグには何が必要なのか。Jリーグの村井 満チェアマンと日本サッカー協会の原 博実専務理事に、それぞれの立場から意見を交換してもらった。

取材／構成：朝日新聞社 編集委員 潮 智史
※この対談は2014年10月22日に実施しました。

哲学がプレーを通して伝われば(村井)

—— Jリーグの現状をどう見えていますか。

原 セレッソ大阪がAFCチャンピオンズリーグ(ACL)に出場する一方で、残留争いをしていくことが現状を表しています。各チームの力は

接近しているが、アジアでは勝てない。ACLで優勝しても、国内では勝てないようなレベルになればいい。リーグ全体が、ほどほどのところで安定してしまった印象です。創設当初のように、プロになれてうれしくて、ボールを必死で追うような部分を忘れてきている。淡々と勝った、負けたとなっているのが残念です。

村井 テレビのチャンネル一つで海外サッカーが見られて、われわれは常に相対の中にいる。世界のサッカーの中に引きずり込まれて比較されてしまう。今シーズン初めに提案した三つの約束にもあるが、接触プレーですぐ倒れてやめてしまったり、痛がる姿はワールドカップではほとんど見られない。世界では恥ずかしいと見なされます。これらをなくすことはすぐに始められます。来シーズンからJ1の試合をデジタルトラッキングしていきますが、何キロ走ったか、何回スプリントしたか、最高速度やパス成功率を国際試合と比較していく。倒れている選手数と時間を見たら、これではだめだろうと。マインドリセットができれば、今の選手は十分できる力を持って

いると思います。

—— 日本サッカー協会(JFA)が協調してJリーグを面白くするためにできることは。

村井 育成などの土台づくり。選抜する立場のJFAの育成システムと、Jクラブの育成システムを重ならないようにして、都道府県サッカー協会とJクラブがどう協力するかの役割分担が重要になります。

原 JFAがやるのは選手育成と指導者養成。指導者なら将来伸びるかどうかを見抜く目を養う。海外に指導者を出して経験を積ませるとか。元代表選手が解説者ではなくて、指導者として活躍できる道をつくりたいですね。

村井 重要なのはスタジアム。全面屋根付きのサッカースタジアムを増やしたい。多目的で商業施設があって、サッカーを含めて一日楽しめるような空間づくりをJFAと一緒に進めたら相当なパワーになります。

—— サッカー自体の質を変えていく必要性も感じます。

原 世界の主流はスピードです。チャンスの

PROFILE

原 博実(はら ひろみ) 1958年10月19日生まれ。栃木県出身。選手時代は早稲田大学、日本サッカーリーグの三菱重工でFWとして活躍。日本代表では国際Aマッチ75試合出場で歴代4位の37得点。指導者ではJリーグの浦和レッズ、FC東京の監督を務めた。2009年2月から14年9月まで日本サッカー協会(JFA)技術委員長(強化担当)。10年7月~13年12月にJFA理事。13年12月から同専務理事。Jリーグでは10年7月から理事を務める。

時にパスがきちんと出る。日本は前に行かずにボールをすぐ戻してしまう。戦っている時間も短い。ボールを取りに行かないし、後ろでパスを回している時間が長い。ゴールを目指すサッカーはもっとシンプルなもの。そういう見方をすれば、J2で優勝した湘南ベルマーレは面白いですね。

村井 湘南が話題になるのは、クラブがどういうサッカーを目指しているのかがサポーターにも共有されているから。勝ったら拍手、負けたらブーイングだけではなくて。クラブのサッカーを言語化して、お客さんを引き込んでいく。ホームタウン活動、青少年への影響など、勝った負けたの世界観だけでは地域や子どもたちに影響を与えない。最後まで諦めないといった哲学がプレーを通して伝われば影響力も高まります。その意味で湘南は一步を踏み出したのではないのでしょうか。

指導者も国際経験を早くする(原)

—— お二人はJFAのJリーグ将来構想委員会のメンバーでもあります。

原 JリーグとJFAと一緒にやろうというのは、まず育成。U-16、U-19の日本代表がそれぞれのカテゴリーのワールドカップアジア予選で負けた。各年代の代表選手の多くがJクラブのアカデミーから出ています。Jリーグ創設から21年がたって、JリーグもJFAも新しいスタートを切る時だと思います。

村井 長期的にどうやっていい選手を輩出していくか、育成の役割はJリーグが担う部分も大きい。現実的なJリーグの視点からいけば、ACLでタイトルを取り、クラブワールドカップで世界と対等に戦う実力をJクラブが持たなければ、代表も世界で勝てない。そのために日程をどう組むか、JFAと協力してクラブをどう支援するかを現実論で話しています。

—— すぐに手を付けることはどのような点でしょう。

村井 「あのクラブは育成で成功してるね」と言っても、分解していくと因果関係が漠然としている。ドイツでは外部が具体的、客観的に育成システムを精査、格付けしている。それを年内に試す予定です。一貫した育成哲学があるか、具体的手法を持っているか、同じ観点でスカウトしているか、財務的な手当てをしているかなどをきちんと見ます。国際大会を開催して、日本で育成年代がアジア諸国と戦う経験を演出できないか。具体的な計画づくりに入っています。

原 欧州、南米では代表だけでなく、クラブも国際大会で経験を積む。指導者も国際経験を早くすることで、世界では何が必要か把握でき

る。そこにお金を使っていく。Jクラブに補助して単独で海外に遠征してもらうとか。いい選手が出てくるサイクルをつくらないと、今より上には行けない。来年6月にU-16の国際大会をJFA主催で開催する予定です。

村井 まだ構想段階ですが、例えば、ACLで韓国に行くときにユースチームも帯同して試合をして、トップチームが戦っている風景を見てくる。ACLに出ればクラブ全体が国際経験を積むことも可能。その予算をリーグが補填することも考えられます。指導者もキャリアを長期的に見た上で、海外で指導経験を積ませることも考えたい。

タフであっても水曜、土曜で(村井)

—— 日程の組み方や大会の整理について、協調はできますか。

原 将来構想委員会では2017、18年を目指してカレンダーを検討しています。現状のチーム数、シーズンを前提に議論を進めています。

村井 ACLなどの国際大会にベストコンディションで出場できるように、一定の日数を置くことは必要です。でも、国内の試合なら同条件であれば、タフであっても水曜、土曜でやっていく。ただ、試合が偏らないように年間を通してリーグ戦とカップ戦をリズムよく組むことが大切です。

原 日本代表戦とACLは国際サッカー連盟(FIFA)、アジアサッカー連盟(AFC)に決められてしまうので、日程上、それぞれを優先せざるを得ない。Jリーグの日程も大事です。その後にJリーグヤマザキナビスコカップと天皇杯全日本サッカー選手権大会をどう組むか、優先順位を考えてきました。具体的な日程を出して話し合っています。

—— お互いに譲歩も必要となりそうですね。

村井 優先順位をつけるには、大会の意味合いを定義していくことです。ヤマザキナビスコカップのおかげで若手を起用できる。日程を単に詰めるのではなく、各大会の意味合いを考えながら整理していくことで集約してきました。1月と2月の大半は日本で試合はできない。降雪地域や練習場の環境を整えて試合をやるシーズンを広げたいし、午後6~7時にキックオフするサマーシーズンをもっと伸ばす議論もあるが、いったんこのままやろうと。湿度80%とか、気温35度とか、ピッチが悪い中でやらないといけない現実がアジアにはあります。

育成のスペシャリストを(原)

—— 育成と指導者養成の現場で感じていることはありますか。

原 局面での強度が低い。海外に比べて、戦う場面が少ない。ストライカー、センターバックが育たないのもゴール前にボールがいかないから。日本の指導者は何でもできる選手が好き。不器用だけど、ここは特別な能力がある、というのを外国人指導者は高く評価する。日本人は指導者として少し真面目過ぎるのかもしれない。

村井 ボールを蹴る、止めるの基本技術もスベ

シャリティーも重要だけど、例えば、観察する力、考える力、判断する力、伝える力、それをみんなでもとめる力、振り返る力も大事。仲間が緊張していることを観察して修正するのは監督の力ではなくて、選手同士がピッチ上でコミュニケーションして軌道修正していく。本来持っている力だけど、どこかで摘み取られていく。もっと子どもたちがいい感じの感覚をアジアの中でうまく学ばせられないかなと。そういったものをサッカーから日本社会に出していけたらいいですね。

原 育成の指導者の一番難しいところですね。最初はいろんなことを考えてやるのに、次第に「これやれ、あれやれ」と次第にロボットみたいになってしまふ。ネイマール、メッシのようなひらめきを表現させるのは難しいが、そういう指導者がもっと多く出てきてほしい。

—— 現状では育成の指導者の立場や待遇は低い。育成コーチは通過点で、トップチームの監督がゴールのような見方が根強い。

原 それが出ると、子どもは離れていってしまう。育成のスペシャリストを、クラブが育てないといけない。「全国大会に出られなければだめ」と言われるから、勝ち負けにだけこだわってしまう。

村井 人間教育も含めて、トータルで子どもたちを見る司令塔の役割を担う人材が育ってほしい。全51クラブで一人ずつ育てば、Jリーグの将来は明るいかもしれない。この20年間、上澄みを上げることに注力してきたが、リーグとしてできることを考えていきます。



来シーズンからはプレーをデータで表現し、選手のレベルアップに役立てようという村井チェアマン(左)。原専務理事は試合日程の調整も重視。Jリーグ将来構想委員会では、具体案を出して議論しているという

2014 Jリーグ 月間ベストゴール／コカ・コーラ Jリーグ月間MVP

各月のJ1リーグ戦で最も優れたゴールを表彰する「月間ベストゴール」に、9月度は浦和レッズのMF柏木陽介が第24節の柏レイソル戦(9月20日)で28分に決めた得点が選ばれた。月間ベストゴールは、年間で最も優れたゴールに与えられる「最優秀ゴール賞」のノミネートゴールとなり、同賞は12月9日(火)に行われる2014 Jリーグアウォーズで表彰される。

また、各月のリーグ戦(J1、J2)において最も活躍した選手を表彰する「コカ・コーラ Jリーグ月間MVP」は、9月度のJ1は宇佐美貴史(ガンバ大阪)、同J2は大黒将志(京都サンガF.C.)が選出された。受賞者にはそれぞれ30万円、20万円の賞金が授与される。



「驚いているが、非常にうれしい」と柏木



得点だけでなく、パスの巧みさも光った宇佐美



J2得点ランキングの首位を独走する大黒

東日本大震災復興支援「カルビー＆Jリーグ 元気にサッカー！スペシャル観戦ツアー！！2014」

Jリーグとカルビー株式会社は10月18日、東日本大震災で被災した福島県内のサッカーチームに所属する小学生6チーム90人を宮城県仙台市に招待し、サッカー交流大会と、ペガタ仙台 vs 浦和レッズを観戦するイベントを実施した。本イベントは、福島県内で放射能の影響により、サッカーを楽しむ機会がまだ万全とはいえない地域の子どもたちを招待し、ペガタ仙台ジュニアやカルビー株式会社の社員、JリーグOB選手の岩本輝雄、福西崇史の両氏と共に思い切りプレーし、J1リーグの試

合をスタジアムで観戦する機会を提供した。

こしは、主催者代表としてJリーグの村井 満チェアマン、カルビー株式会社の伊藤秀二代表取締役社長兼COOが来場し、子どもたちに声を掛けながら交流大会を観戦した。村井チェアマンは「いまだに屋外の活動が制限されている地域の子どもたちも、少し足を伸ばせば良い環境がたくさんあるので、今後もこのような機会を増やしていければ」と



子どもたちはピッチ内を元気に走り回り、交流も楽しんだ

抱負を述べ、福島県出身の伊藤社長も「福島県の子どもたちにとってはすごく良い経験になった。Jリーグが行っているホームタウン活動にとっても共感しており、今後もJリーグトップパートナーとして協力していきたい」と話した。

2015シーズン J3リーグ参加クラブに関する「スタジアム要件」および「ライセンス基準」の審査結果

Jリーグは10月21日に開催した理事会で、2015シーズン J3リーグへの入会申請のあったクラブに関する「J3スタジアム要件」および「J3ライセンス基準」の審査結果について、下記のとおり決定した。

審査結果		
	クラブ名	判定結果
J3クラブ	グルージャ盛岡、ブラウブリッツ秋田、福島ユナイテッドFC、Y.S.C.C. 横浜、SC相模原、藤枝MYFC、FC琉球	J3ライセンス承認
Jリーグ 百年構想クラブ	アスクラロ沼津、レノファ山口FC	ステップ2、ステップ3に合格※1
	ヴァンラーレ八戸FC	ステップ2に不合格※2

※1：ステップ2(「J3スタジアム要件」審査)、ステップ3(「J3ライセンス」資格審査)に合格した百年構想クラブについては、今後、ステップ4の「J3入会審査」を受け、11月の理事会で入会を承認され、ステップ5の「JFLでの競技成績」(JFL4位以内、かつ百年構想クラブのうち上位2クラブ)の条件をクリアした場合、J3リーグへの参加が認められる。

※2：審査対象である、十和田市高森山総合運動公園球技場に関しては、シャワーの数不足、チーム更衣室の狭さの他、ドーピングコントロール室、実況放送席などが具備されていないため不合格。

J1リーグ戦入場者数1億人を達成
～1993年のリーグ戦開幕から合計6045試合で達成～

J1リーグ戦は、9月23日に開催した2014 Jリーグ J1リーグ戦第25節で、通算入場者数が1億人を超えた。1993年5月15日の開幕戦からの通算6045試合で達成した。

マルハンカップ 第20回日本電動車椅子サッカー選手権大会を後援

Jリーグは、10月18～19日に石川県金沢市で行われた「マルハンカップ 第20回日本電動車椅子サッカー選手権大会」(主催：日本電動車椅子サッカー協会)を後援した。この大会は、日本国内において電動車椅子サッカーの普及振興を図ることを目的に開催されている。

功労選手賞

Jリーグは10月21日に開催した理事会で、元Jリーグ選手の伊藤宏樹(いとう ひろき)、岡野雅行(おかの まさゆき)、ジュニーニョ、服部年宏(はっとりとしひろ)、波戸康広(はと やすひろ)、山田暢久(やまだのぶひさ)、吉田孝行(よしだ たかゆき)、ルーカスの各氏に対し、功労選手賞として表彰することを決定した。表彰は12月9日(火)に開催する2014 Jリーグアウォーズで実施する。

セレッソ現象分析 勉強会を開催

Jリーグは10月3日、「セレッソ現象」についての勉強会をJFAハウスで開催した。セレッソ現象とは、2013年夏ごろよりJ1リーグのセレッソ大阪の試合入場者や練習場への来場者が増加し、特に女性の関心が顕著に高まった状況を指す。Jリーグが立命館大学スポーツ健康科学部を共同調査パートナーとして、C大阪のサポータークラブ会員や同ファン層を対象に、ファンの属性分析、興味の対象、ファンとなったきっかけなど、多角的に実施した調査の結果を報告。調査を通して、現象の背景には女性ファンが増加した要因、有名外国籍選手獲得の効果などがあることが浮かび上がってきた。報告を行ったJリーグ事業部マーケティング戦略室の阿部俊介アシスタントチーフは「気付きと反省のためにも、こうした調査のエッセンスをしっかりと残すことが大切」と、調査の意義を述べた。

2014 Jリーグアウォーズ

Jリーグは、12月9日(火)に神奈川県横浜アリーナで開催する年間表彰式「2014 Jリーグアウォーズ」の実施概要を以下のように発表した。こしから開始した明治安田生命 J3リーグの選手も参加し、規模を拡大して開催する。

- 15:30 開場
 - ・ J2 Most Exciting Player投票(～16時30分)
- 17:00～17:45 サポーターステージショー
 - ・ J2 Most Exciting Player、J2 最優秀ゴール賞 発表 他
- 18:00～20:00(予定) 表彰式
 - ・ Jリーグ年間表彰式

また、各賞の表彰概要が決まり、J2 Most Exciting Playerのノミネート選手となるJ2 Exciting 22の投票、ファン・サポーター観覧者の募集も始まった。

ニュージャージー州ハリソン市にあるレッドブルアリーナ。2010年にオープンしたサッカースタジアム

アメリカサッカー成長の鍵はどこにあるのか。国内トップリーグのメジャーリーグサッカー (MLS) を中心に現地を視察した中西大介Jリーグ常務理事による報告を参考に、今回はJリーグで何をすべきなのかを考えてみたい。

朝日新聞社 編集委員 潮 智史

MLSの成長要因

今回の現地視察で中西常務理事は、MLSが成長してきた要素を三つ挙げている。

1996年のリーグスタート後は観客が減少する傾向があったが、2002年にサッカーユニテッドマーケティング社(SUM)の設立により経営改善を図ったことは前号で報告した。最初の成長要因は、その回復期に2万人前後の収容数を持つサッカー専用スタジアムの新設を進めたことだ。MLSでは、新規参入条件に専用スタジアムを持つことを義務付けている。周辺地域の都市開発とリンクさせることで投資家を呼び込み、1999年以降で16スタジアムが新設された。このうち、12がサッカー専用である点も注目すべきであろう。

二つ目は、スター選手の積極的な獲得にあるという。アメリカ代表が2006 FIFAワールドカップドイツでグループステージ最下位に終わった翌07年に、特別指定選手制度(当初は1クラブ当たり1人まで。現在は3人まで)を導入した。MLSはサラリーキャップ制を採用入れてチーム間の戦力の均衡を図ってきたが、一方でリーグ全体を魅力あるものにするために、07年にデービッド・ベッカム(イングランド)、

10年にティエリ・アンリ(フランス)、11年にロビー・キーン(アイルランド)ら欧州のクラブから次々とスター選手を獲得している。15年には新たに、カカ(ブラジル)、フランク・ランパード(イングランド)ら加わる予定だ。

サラリーキャップは06年に1チーム当たり約1億9千万円だったが、段階的に拡大してことは約3億1千万円。特別指定選手の契約はサラリーキャップが適用されず、場合によってはMLSが交渉、投資を行う場合もある。もともとの基本ルールとして選手契約はMLSが直接結んでおり、リーグ自体が全体の発展、成長を目指してスター選手をバランス良く呼んでくることができるようになっている。MLSから欧州など海外に選手が出ていく場合の移籍金は3分の1がMLSに、残りの3分の2が各クラブに入る。

三つ目の成長要因は、入場料収入の拡大だ。これを支えているのは、アメリカンフットボール(NFL)やバスケットボール(NBA)など、他のプロスポーツからの人材流入がある。スポーツマネジメントを経験したスタッフを積極的に迎え入れ、10年に「ナショナルセールスセンター」を設置。ここでは、チケット販売員の育成を進めて、実地訓練を重ねる。一定の教育を終えたメンバーがMLSの各クラブに送り込まれて、実際にチケット販売を担当するという仕組みだ。

中西常務理事が「興味深い」と指摘するのは、これらの施策がFIFAワールドカップ開催年を中心にほぼ4年ごとに行われているという点だ。ピッチの外でも、常に新しいものを採り入れて歩みを止めないという点で、アメリカの

6 STEPS OF THE SALES PROCESS

1. Build Rapport
2. Set the Agenda
* "The reason for my call is..."
3. Ask Open Ended Questions
* Utilize Research & Preparation
4. Apply Product Knowledge
* "Based on what you've told me..."
5. Handle Objections
* Scale of 1-10
* Create Urgency
6. Ask for a Commitment/Sale
* Don't forget Referrals

セールスの6段階

1. 関係構築
2. 課題の設定
「お電話いたしましたのは…」
3. 質問
調査と準備の活用
4. 商品知識の紹介
(関心内容に応じて)
5. ご意見の取り扱い
・1から10のレベル
6. 約束 / 取り引きを求める
忘れずに照会

チケット販売員の育成、訓練を行うナショナルセールスセンターのスタッフに配布されている心得カード。セールスの際に必要な基本事項が簡潔にまとめられている

取り組みは示唆に富んでいるといっていだらう。

方向性と大胆な取り組み

視察を終えて、中西常務理事は「同じサッカー中堅国としてアメリカと日本は、もう一段階上のレベルに行く難しさに気付いている」と話している。競技人口や興行として定着するなど一定の普及が進み、FIFAワールドカップ出場常連国になった一方で、欧州や南米に追いつくには、先進国とは違う取り組みが必要になる。「その点で、イノベーションを起こそうとしているアメリカの取り組みは参考になる。Jリーグもここまで成長してきた従来の努力と同質のものでは、うまくいかないと実感している」。

Jリーグはデジタルの活用と育成への投資を掲げてきたが、今回の視察でその方向性が間違っていないことは確認できたという。この二つの分野で具体的な施策の検討を精力的に進めている最中で、「大きな展望を描いて、戦略をシンプルに絞り込み、大胆に投資することが大切だ」と話している。



ナショナルセールスセンター内部の様子

©MLSNSC

有森 裕子 Jリーグ理事に聞く(上)

人生の気づきをもらった「カズ」とJリーグ

ことし1月にJリーグ理事に就任した有森裕子氏は、オリンピック女子マラソンのメダリスト。陸上競技では日本初のプロランナーとなったことでも知られる。1996年の自身のプロ宣言に大きな影響を与えたのは、「カズ」こと三浦知良選手(現 横浜FC)とJリーグだったという。

PROFILE

有森 裕子(ありもり ゆうこ)岡山県出身。日本体育大学卒業後、㈱リクルート入社。オリンピックの女子マラソンでは、1992年バルセロナ大会で銀メダル、96年アトランタ大会で銅メダルを獲得。2007年にプロマラソンランナーを引退。02年にアスリートのマネジメント会社「ライツ」(現 株式会社RIGHTS)を設立し、取締役に就任。国際陸連女性委員会委員、日本陸上競技連盟理事などを歴任。10年には日本人として初めて国際オリンピック委員会(IOC)女性スポーツ賞を受賞。著書に「やめたくなかったら、こう考える」(12年PHP研究所刊)など。

※このインタビューは2014年10月1日に実施しました。



入場者で埋まったスタジアムに感謝

—— Jリーグ理事就任の経緯は。

有森 私は過去にJクラブで選手のセカンドキャリアについて、何度か話をする機会がありました。また、日本サッカー協会(JFA)が実施している「JFAこころのプロジェクト」で何度も、夢先生をやらせてもらいました。サッカー界は、他のスポーツ団体ができないような取り組みをえていますね。私も選手の育成や引退後に興味があったので、そういったところに関わらせてもらったことがきっかけだったのかな、と。プロ競技の組織で学んでみたいという思いもあって、引き受けました。もし将来、陸上競技の現場に戻ることがあるなら、この経験を生かせればと思います。

—— 理事就任前にJリーグの試合観戦の経験はありましたか。

有森 岡山の出身なので、帰省の際にファジアーノ岡山の試合を見に行ったことがありました。ありがたいことに、初めて多くの入場者で岡山のスタジアムが埋まったのを見ました。陸上など他の競技でスタンドを埋めるのは大変なんです。岡山にセカンドキャリアの話をしに行った時、何よりも先に「ありがとう。岡山が初めてスポーツで盛り上がった」とお礼を言ったのを覚えています。スタジアムでは売店に行って「どれが一番売れているんですか」と尋ねて、タオルマフラーやTシャツを買いましたよ。タオルマフラーを振るタイミングとかは、分かりませんでしたけど(笑)。

—— 現在は他にどのような活動を行っているのですか。

有森 いくつかありますが、一つが「スペシャルオリンピックス(SO)日本」で理事長を務めて

います。知的障がいを持った方々がアスリートです。1962年、故ジョン・F・ケネディ大統領の妹ユニス・ケネディ・シュライバー夫人が、知的障がいのある子どもたちを招き自宅の庭を開放して開いたデイキャンプがSOの始まりで、日本では発足して20年になります。社会との接点を持てず、可能性を見いだすことが難しかった人たちに、オリンピック競技種目に準じたスポーツを通して、いろいろなきっかけやチャンスを提供しようという趣旨です。オリンピック・パラリンピック開催の前年に世界大会が行われ、サッカーもあります。

—— 「障がいを持つ人も一緒にスポーツを楽しめる環境をつくっていく」というJリーグの活動方針に通じるところがありますね。

有森 はい。代表理事を務めている「ハート・オブ・ゴールド」では、カンボジアにおける対人地雷の撲滅と、対人地雷で手足を失った方々の自立支援をサポートするという取り組みを行っています。毎年、カンボジアで開催されるアンコールワット国際ハーフマラソンに参加する一方、現地で保健体育教師の養成などにも力を入れています。日本から指導者養成のための指導者を派遣したり、専門家とコラボし、国際協力機構(JICA)の委託事業として指導要領を作成したり。第1回のアンコールワット国際ハーフマラソンから18年がたって、現地の先生がその教科書を基に指導を始める流れができてきました。

サッカーを通じた支援に憧れ

—— スポーツを通じた支援、救済の活動が多いのですね。

有森 競技種目にかかわらず、みんながスポーツを楽しめたらいいと思っています。以前、国連

の人口基金親善大使を務めていた時、「Right To Play」という活動を知りました。そこで行われていたのが、選手が赤いボールを貧困や紛争などに苦しむ地域へ持参し、ボール一つで子どもたちとつながる、元気にするという活動でした。サッカーはボールを蹴り始めるだけで、すぐにみんながつながれるじゃないですか。あの支援の仕方は自分にとってすごく憧れで、サッカーがうらやましかったですね。

—— 有森さんがリクルートで競技生活をしてきた93年にJリーグは発足しました。

有森 サッカーへの興味が増したのは、そのころでしたね。実は三浦知良選手の影響が大きいです。直接に話したことはありませんが、彼とは同年代で、彼らが自分のやってきたスポーツをプロとして続け、Jリーグという舞台で活躍していることが、とてもうらやましかった。当時、陸上競技にプロというカテゴリーはありませんでしたが、「いったい自分には何ができているんだ。自分は陸上で食べていこうとしているんだよね」という気づきがあったんです。

—— 三浦選手やJリーグが、有森さんの96年のプロランナー宣言につながったと。

有森 同年代のスポーツ選手が持つ意識が、こんなにも違うのかと刺激を受けました。私は走ることで生活の糧を得るところに入ったはずだと。組織はプロではないが、「プロ」という意識を私に植え付け、きっかけをつくってくれたのが彼といってもいいんです。私がプロ化、プロ宣言を陸上競技ですることができたのは、少し大げさかもしれないけど、三浦選手の存在、あの当時のサッカー、プロ組織として出来上がったJリーグがものすごく大きな影響になった。うらやましいと同時に、追い付きたい、そのようになりたいと思いましたね。(次号に続く)

